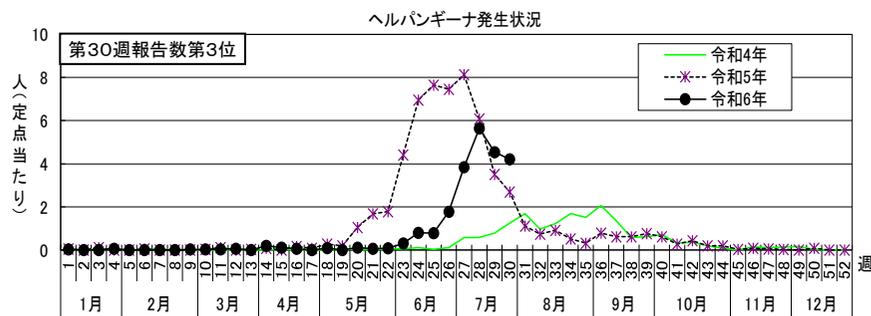
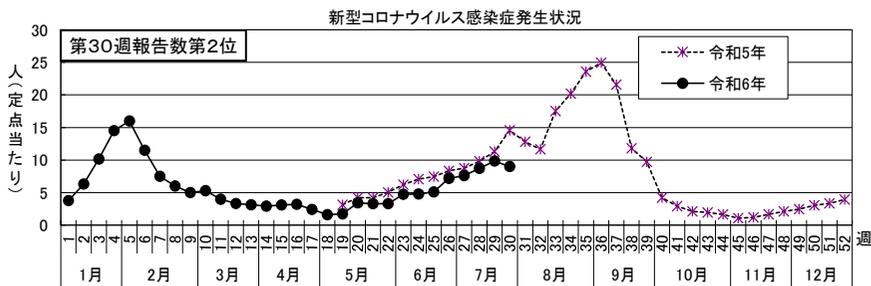
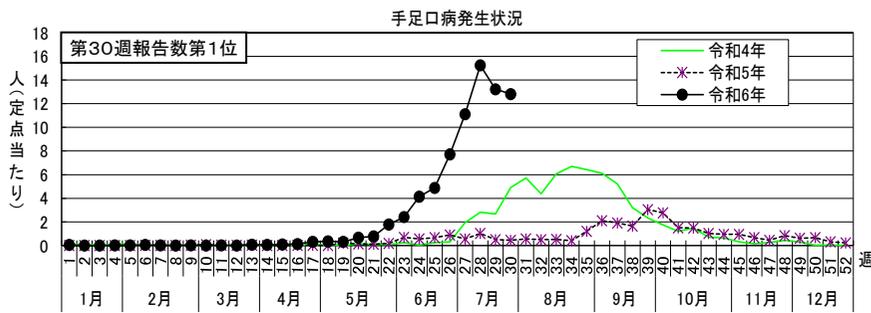


# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年7月22日（月）～令和6年7月28日（日）〔令和6年第30週〕の感染症発生状況

第30週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 手足口病 2) 新型コロナウイルス感染症 3) ヘルパンギーナでした。  
 手足口病の定点当たり患者報告数は12.81人と前週（13.22人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。  
 新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は9.00人と前週（9.84人）から横ばいでした。  
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は4.22人と前週（4.54人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。

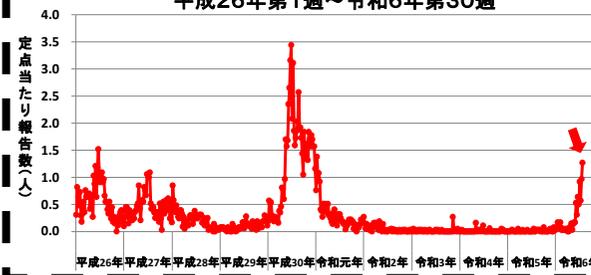


## 伝染性紅斑の報告数が増加しています！

伝染性紅斑は両頬に紅い発しんが現れるのが特徴的な感染症で、一般的には「リンゴ病」とも呼ばれています。近年は、新型コロナウイルス感染症の流行の影響により報告数が激減していましたが、今年は第23週（6月3日～9日）以降報告数が増加し、第30週（7月22日～28日）には定点当たり患者報告数が1.27人となりました。特に中原区で3.50人、宮前区で2.17人と流行発生警報基準値（2.00人）を超えています。

微熱やかぜ様症状で発症し、1週間程度経過すると発しんが現れますが、この時期にはすでに感染力はありません。予後は良好ですが、妊婦が感染すると、胎児に浮腫が生じる胎児水腫等を引き起こす可能性があります。妊娠中は、かぜ様症状がみられるお子さんとの接触を極力避けましょう。

川崎市における伝染性紅斑の発生状況  
平成26年第1週～令和6年第30週



### 伝染性紅斑とは？

**潜伏期間:** 10～20日間  
**好発年齢:** 就学前後の小児  
**症状:** 微熱、かぜ様症状の後、両頬の境界鮮明な紅い発しん、手や足の発しん等（7～10日前後で消失し、予後は良好）  
 成人の場合は関節痛、頭痛等  
**治療:** 特異的な治療方法はなく対症療法が中心

### 妊娠中の方は要注意！

妊娠中（特に妊娠初期）に伝染性紅斑に感染すると、胎児水腫という異常がみられたり、流産や死産の原因となることがあります。  
 ※胎児水腫：胎児の心機能が低下し、胸や腹等に水がたまった状態